

JICAだより

ジャイカ ヒックス JICA-HICSが実施する研修員の学校訪問

海外からJICA-HICSに滞在して北海道で技術移転を受けている研修員たちが学校訪問を行うことにより、日本の若い世代が国際交流から国際協力へと考える機会を提供しています。「総合的な学習の時間」の本格導入に伴い多くの学校からお問い合わせをいただいておりますが、研修員達は日々多忙なスケジュールに従って研修を受けているため、全ての学校のリクエストに応じきれない状況にあります。本プログラムについては、研修員の年間計画

を調整し、北海道教育委員会・札幌市教育委員会の助言を得て、北海道国際理解教育研究協議会及び札幌国際理解教育研究会に訪問学校の選定及び取りまとめについてご協力をいただいております。



石狩市立紅葉山小学校への訪問で、研修員の出身国(エジプト)について調べたことを発表する児童たち

平成14年度JICA研修員の学校訪問反省会を開催

3月26日、北海道国際センター(札幌)にて、平成14年度に当センターが実施したJICA研修員による学校訪問の反省会を開催しました。反省会には訪問校の中から14校、北海道国際理解教育研究協議会及び札幌国際理解教育研究会、北海道及び札幌市、(社)北方圏センター(NRC)及び(財)札幌国際プラザ並びにJICE及びJICAの各関係者が出席し、15年度の学校訪問をより充実したものにすることを目的に事例紹介や意見交換を行いました。

会議冒頭、出席者を代表して挨拶いただいた北海道国際理解教育研究協議会の眞木会長はじめ訪問校関係者からも、同プログラムが児童・生徒にとって、国際理解を進める上で貴重な機会になっているとして、来年度以降の同プログラムの継続と訪問コース数の増加への強い要望が出されました。

この他、更に学習として意義のあるプログラムへと内容を深めるために、2、3年と継続した研修員訪問が強く要望され、閉会の挨拶をいただいた札幌国際理解教育研究会の安藤会長から、参加人数の多い研修コースをグループ分けし、同時に2校以上を訪問する可能性の検討について要請がありました。この提案については、当センターとしても前向きに検討し、平成15年度の訪問計画

を調整していくこととしました。

また、訪問校において訪問当日の通訳ボランティアを確保できない学校については、当センターに登録している「HICSボランティア」や他団体登録のボランティアの活用を検討していくこととしました。

開発教育の取り組みをより効果的に行う方策として、(1)訪問研修員の研修内容についての学習交流、(2)電子メール等を活用した研修員らとの訪問後の交流の継続、また(3)JICA他団体が実施する他の交流プログラムとの有機的な組み合わせや、(4)国際理解教育研究協議会や研究会が学校側とJICAとの調整機能を活発化させる等の具体的なアイデアが提案されました。



学校訪問時の事例紹介を行う札幌市立青葉小学校の白石先生



水道技術を学ぶ研修員を訪問



音による漏水検査を体験する高校生

高校生国際協力実体験プログラム 募集のお知らせ

国際協力に興味がある高校生の皆さんに対し、生徒4名及び引率教員1名を1グループとして夏休み期間に2泊3日でJICA-HICSに宿泊していただき、各校の取り組んでいる国際協力について発表したり、JICAが実施している研修員受入事業を中心とした国内の国際協力現場等を紹介することにより、国際協力に対する理解を深めていただくプログラムを例年実施しています。

参加に係る経費(学校からHICSまでの交通費・HICS宿泊費)は当方で負担します。募集については例年6、7月に北海道教育庁生涯学習振興課及び北海道高等学校国際教育研究協議会を通じて行いますが、興味のある方は直接JICA-HICSにお尋ねいただいても結構です。本年度は8月5～7日の実施を計画中です。